

理事から今年の振り返りと今年の抱負 PART2



今回も前回に引き続き NPO の大阪の理事と東京の理事から今年の振り返りと今年の抱負をいただきました！以下となっております！

←【小方理事】法制化を前にこの NPO 以外にも全国的にも動きが活発になったと感じます。今年も会員の皆様方と情報交換しつつ無電柱化の推進に向けて活動していきたいと思っております。



←【佐々木理事】去年は今までの NPO 活動の中で一番盛り上がった年でしょう。今まで馴染みの少なかった無電柱化と言う単語が少しは世間に認知されたのではと思います。特にマスコミでの井上事務局長の活躍は素晴らしいです！

今年はいよいよたくさんの方達が無電柱化に関心を持ってもらい NPO へ参画して頂けたらと思います。それに向けての啓発活動を更に推し進めると同時に NPO も提案力と技術力の向上を進めて行きたいです。海外視察も計画したいですね！



←【高山理事】あけましておめでとうございます。昨年見送られた無電柱化法案が早々に可決されることを願っています。今年は無電柱化元年として位置づけ国策としてもその期待が高まります。私は長年の実績を活かして無電柱化された美しい街づくりの普及促進に、また永く住み継がれてより資産価値の高い住まい街づくりを推進していきます。

←【前川理事】昨年は 2 月の渋谷でのシンポジウムと 5 月の札幌での寒地土木研究所との勉強会、7 月の無電柱化推進展をお手伝いしました。無電柱化展の後は東京支部参加メンバーが 25 名前後と倍増に近くなりました。12 月は土木学会景観・デザイン研究発表会に参加しました。2016 年は、事例データベースの公開を中心に情報共有を一層進めたいと思っております。無電柱化法の成立・推進のために強力なシンポジウム開催と、無電柱化推進展を盛り上げていきます。欧州視察会も実現するようにします。



←【山本理事】当 NPO (略称「NPONPC」) が発足して約 10 年が経ち、東京理事会の活発な活動、札幌事務局の開設構想、大災害時の緊急道路における電柱の新設禁止、無電柱化を推進する市区町村長の会、無電柱化議員立法や寒地土木研の動き等、電線地中化に賛同する機運は大変高まっている。NPONPC 発足当初、市民他各方面に対する電線地中化啓蒙をめざした活動の目標はほぼ達成された状況にあると考えている。NPONPC の活動は次の次元に移る必要がある。2016 年は現状を認識し、NPONPC が次に目指すべき従来の延長線ではない役割を再確認して実行に移す年にしたいものだと思う。



日本の電柱の現状について感じる事を 1500 字程度で書いてお送り下さい、掲載させていただきます。自己紹介(お仕事、住所等)と顔写真を添えて下さい。お待ちしております！事務局

「美空」に載せてほしい事、調べてほしい事等ありましたら info@nponpc.net までお送り下さい！皆様のご意見、お待ちしております！tel:06-6381-4000 Fax: 06-6381-3999(※番号変わりました)

日本の空を、安全・安心で美しく！

美空 ～MISORA～

第 89 号

発行日:2016 年 2 月 25 日
発行者:NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク
理事長 高田 昇

【活動報告】 ■理事会 1 月 29 日(金)18 時～COM 計画研究所

【技術開発委員会】伊津理事:中部電力に非公式でヒアリングしたが、それをどのように使うのか。例えばその伝手を使った今後の情報交換など→まずは関西電力と仲良くすべき

【世論形成委員会】井上事務局長:木村副理事長より電話を頂いた。4月あたりでメーカーを呼んだセミナーや総会時何か。東京活動委員会は5月に大きなシンポジウム開催という意見。高田理事長:地中化じゃなくても街づくりをテーマで話して貰ってもよい。(候補:大和ハウスの樋口会長、小河元大阪府副知事、山下葛城市長、先斗町関係者、フェルドマン氏)

【事業協力委員会】井上事務局長:宮内先生ヒアリング、東京活動委員会に国交省田中課長補佐が講演。見附市の無電柱化再始動。川越視察を1月21日開催。先斗町無電柱化で京都市への聞き取り実施。山下葛城市長面会(当 NPO 顧問就任)

伊津理事:札幌事務局を6月に開設予定。無電柱化推進展 7/20、21、22 開催。搬入は19日から。今回も NPO は無料でブースを提供して貰う。今年の NPO の売上25万円。シンポジウムの企画料。国交省からの助成を貰ってはどうか。NPO 設立10周年。来年出版の企画をしてはどうか。企画案を募集。

■東京活動委員会 1 月 28 日(火)18:15～ 経団連会館 C3 会議室

【札幌事務局】5月GW明け～6月に設立記念セミナー。講師は寒地土木研の松田氏。日付候補日を2月に2～3日挙げて打診する。

【無電柱化推進法案】5月に祝成立(成立祈願)シンポジウム。高田理事長にコーディネーターを務めてもらう。メインは小池先生。講演者候補は金沢市長 国交省 山下市長 秋葉日大教授 松原先生 鎌倉市 戸越銀座(品川区) 京都先斗町街づくり協議会 巢鴨(豊島区) 見附市長 フェルドマン氏、アレックス・カー氏、大和ハウス樋口会長、レイクタウン開発者など。

【無電柱化推進展】7月19日搬入 7月20日 7月21日 7月22日搬出。

【理事会】山下市長顧問就任を理事会承認



←大阪理事会の様子



←東京活動委員会の様子

◇次回理事会日程 大阪/2月22日(月)18時～ COM 計画研究所
東京/3月17日(木)18時～ 経団連ビル



無電柱化された街並視察会「川越」報告

2016年1月21日、当NPOの高山理事コーディネイトで無電柱化された住宅地の事例として「川越ココロマチ」(トヨタホーム)、商店街の事例として「小江戸川越一番街商店街」を参加者10名で開催しました。その時のレポートを高山理事に寄稿して頂きました。

1. 「川越ココロマチ」

市街地内工場跡地の大規模開発で、既存樹の活用など圧倒的に緑豊かな美しいランドスケープデザインで住宅地を形成しています。

主な特徴として①市街地大規模開発による高額商品 ②街の顔「緑の軸」形成 ③電線類地中化による美しいランドスケープデザイン ④ガーデンデザイナー石原和幸氏の起用 などが上げられます。以下事業概要について説明します。

1) 全体計画

車のアクセスは2ヶ所のタウンゲートのみ、極めて独立性が高いコミュニティとし、メイン通りは緩やかなS字曲線を描く並木のある道路で、3ヶ所の公園と合わせて街の顔「緑の軸」を形成しています。これにコミュニティサークルと称する広場化された東西街路が交差しています。圧巻なのは既存大径木を活かして、一般的開発では適わない緑の豊富な存在感のある街並景観を形成していることです。



↑コミュニティサークル

2) 無電柱化

電線類の地中化が行われ、スカイラインの開けた美しい街並景観が映えます。地中化に伴う地上機器は、歩道内とフットパス、緑地内に設けられています。歩道内の設置につきましては、植栽と組み合わせるなどもう少し景観に配慮された工夫がおしまれます。(写真-2)



↑写真-2 歩道内の地上機器

2. 「小江戸川越一番街商店街」

1) 繁栄する商店街

ここは明治以降の歴史的な蔵づくりの商家が連なり、伝建地区の指定も受け観光で見事に再起した美しく活気のある商店街です。無電柱化されたことで年々観光客は大幅に増加しました。無電柱化前の観光客は年間150万人で、その数年後には450万人となり一昨年の平成26年度は約660万人に増加。その成功事例は、全国的にも有名で数々の賞を受賞やTVでも何度も紹介されています。



↑小江戸川越蔵の町

2) 街歩き

現地視察では小江戸川越観光協会の加藤専務さんに案内していただきました。まず初めはお菓子横丁から始まり、その後伝建地区の一番街商店街へ。最後は商工会議所に場を移して質疑応答などで交流をはかりました。加藤さんは元川越市役所に勤務された方で、一番街商店街の景観計画を担当されたということもあり、これまでの経緯や石畳の舗装、建物の補修やリニューアルなど具体的に整備してきた事例について詳しく説明を受けることができました。

3) 無電柱化

無電柱化にあたっては最後の問題として地上機器の設置場所について、大変苦勞されました。その場所は、民地内の一部を川越市が一括して借地として手当して確保できることになりました。これは川越方式といってもいいのではないのでしょうか。その設置方法は伝建地区ということもあって、景観に配慮した見事な工夫が見て取れます。



↑民地内の地上機器(木戸の裏側)

4) 無電柱化による商店街の繁栄

一番街商店街へのアクセスは東武東上線川越駅からクレアモールを通り地中化された大正浪漫夢通りへ、そして一番街商店街へと続きます。約1.7kmの道のりです。クレアモールも半分以上が地中化されています。このように駅からのアクセスではハンディのある地にあっても、その間の商店街が連続して無電柱化され、モール風になっていつも人で賑わっています。

5) 一番街商店街の景観保全

一番街商店街は今回の視察後に知ることになったのですが、グッドデザイン賞や都市景観大賞など、さまざまな賞を多数受賞しています。昭和26年70店加盟の協働組合が中心となり、町内会や大学、行政、ボランティアなど多くの団体との協力を得て今日に至っています。そしてさらにすばらしいのが、伝建地区という法的な規制もありますが、永続的に景観保全する「川越街並委員会」という組織を持っています。建築的な行為はもちろん、サインや看板などそのデザイン性は総てこの組織がチェックしていきます。

6) 誇り高い市民意識シビックプライドの醸成

加藤専務さんからのご説明でありました。この界限に住む人達は郷土への愛着が大変強い、またここに住みたいという人も多くおり、これまで売り出されたマンションは、そういう人達で大変人気であったとのこと。1648年から始まる川越まつりは、絢爛豪華な山車が蔵造りの町並みを引き回します。その他にも年間をとおしてのイベントも盛り沢山です。この街に住み、何らかのかたちでこのコミュニティに自らも関わり楽しみたい、そういう強い思いが伺われます。

おわりに

一番街商店街は、無電柱化の事業が目的で、終了したらこれで終わりということではなく、理想とする街づくりの最初にしななければならないインフラ整備であるという重要性に気づかされました。この商店街は無電柱化されたその後も、川越街並委員会(25名)を中心として、町づくり規範にもとづき更に町は更新され続けています。店舗計画のリニューアル第1号として、は新しく蔵風な棟を増築してレストランにした例とのことです。



↑奥は増設された蔵風なレストラン

加藤専務さんによる詳しい解説をもって、現地でお話を聞かなければわからなかった貴重な情報を沢山得ることができました。書面を借りてお礼申し上げます。

電線地中化に関するコラム・情報を月2回メールマガジンで配信しています！
ぜひこちらまで登録下さい！ → <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>

最新情報はHPで <http://nponpc.net/> フェイスブック <http://www.facebook.com/NPONPC>